

障害者の防災対策とまちづくりに関する研究

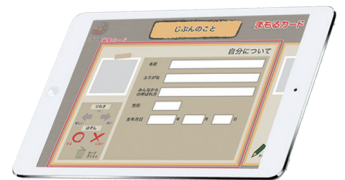
研究代表者：北村弥生 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

kitamura-yayoi@rehab.go.jp

<http://www.rehab.go.jp/ri/fukushi/ykitamura/kitamurayayoi.htm>

東日本大震災被災地における発達障害児の経験 (前川あさ美 東京女子大)

- ・災害発生直後は比較的混乱はなく「いい子」が多かったが、ライフラインの復旧と共に居場所、物資、情報、障害への知識、人材の不足が彼らと彼らの家族を長期にわたって苦しめた。
- ・そうした中でも、他者と繋がることのできた保護者たちには、「自分の受容」「子どもへの発見」「他者との絆意識」「新しい価値観と感謝」といったポストトラウマティックグロースが見いだされた。
- ・一方、直後に過活動が見られた支援者の中には、経過のなかで心身を著しく疲弊させた者があったが、震災をきっかけに繋がった他者との関わりを通して、自己研鑽や地域体制づくりをすすめていく者があった。
- ・後者の支援者の特徴には、自分の使命を明確にでき、他者と関わりと継続し、受容・理解してもらう他者の存在が見いだされた。
- ・調査の結果を踏まえて、子どもが主体的に関われる iPad版 防災アプリ「自分をまもるリュック」を開発・評価した。



(社)福祉芸術支援協会
<http://www.wasa.or.jp>

障害当事者のための防災マニュアルの開発と評価 (北村弥生 他)

DAISY版「自閉症の人のための防災・支援マニュアル(日英)」(日本自閉症協会)、DAISY版&PDF版「災害と発達障がい」、PDF版「発達障害の人のための防災実践BOOK」、PDF版&テキスト版「災害準備リーフレット」3種類を開発し、評価した。



災害時における発達障害児・者への情報提供の在り方

(深津玲子 国リハ発達障害情報・支援センター)

全国85発達障害者支援センターへの調査により、東日本大震災の影響について下記を明らかにした。

- ・1年間は全国的な影響が継続した。
- ・2年目には心理的なケアへの関心が残った。

訪問学級における災害時対策

(猪狩恵美子 福岡女学院大学)

全国の訪問学級のある500校への質問紙法による調査と先進例への面接調査から訪問学級における災害対策の現状と課題を明らかにする。

地域における個別避難計画の作成と防災訓練への参加

(北村弥生)

地域防災訓練への参加により、地域の障害理解と障害者の地域活動を促進したことを実証した。



左：2年目には階段の昇降は町内会で介助。
右：聴覚障害者にはアナウンスを筆記した。

障害者自身が行う避難訓練とその国際啓発

(河村宏 NPO 支援技術開発機構、
福田暁子 ずれーたプロジェクト)

- ・北海道の(社福)浦河べてるの家の精神障害者たち、町役場、町内会による防災活動(津波避難等)を媒介し、国際機関での発表を支援した結果、それぞれの自主性が促進された。国連ZERO PREJECT採択。
- ・当事者の自主活動(ずれーたプロジェクト)の一部として避難訓練や備蓄品選定を記録し、国際的に発信した。



左：浦河べてるの家で津波に備えて4分で10m高台に移動する。
右：呼吸器装着者2名は独自に避難訓練を試行し、国際的に発信した。